

ご満足いただける製品の 供給責任を果たします

当社を取り巻く外部環境と成長戦略

2017年度の世界経済は、欧米を中心とする先進国経済が回復基調で推移する中、中国をはじめとする新興国において経済に持ち直しの動きが見られ、世界経済は緩やかな回復が続きました。日本では、世界経済の回復を受けて輸出や設備投資が好調に推移する中、全体的に持ち直しの動きが見られ、経済は緩やかに回復しました。

当社グループでは「LMガイド(直線運動案内: Linear Motion Guide)」をはじめとする当社製品の市場を拡大すべく「グローバル展開」「新規分野への展開」「ビジネススタイルの変革」を成長戦略の柱として掲げています。

グローバル展開においては、中国をはじめとする新興国でFA(Factory Automation)の進展等を背景にマーケットは成長し、先進国でもユーザーの裾野が広がる中、需要を取り込むべくグローバルでの販売・生産体制の拡充に努めています。

新規分野への展開においては、自動車、免震・制震装置、医療機器、航空機、ロボット、再生可能エネルギー等の消費財に近い分野での採用が広がっており、更なる売上高の拡大を図っています。

さらに、これらの戦略を推し進めるべく、販売、生産、開発等の様々な面でAI、ロボット等のテクノロジーを徹底的に活用し、ビジネススタイルを変革させ、ビジネス領域のさらなる拡大に努めています。

2022年度

連結売上高5,000億円達成に向けて

この度、2022年度に連結売上高5,000億円、営業利益1,000億円を達成するという新たな経営目標

を掲げました。機械要素部品メーカーとしてお客様への高品質な製品の供給責任を果たすべく、現地で生産して販売する製販一体体制を構築する中、目標達成に向け「トップライン拡大」と「ボトムライン強化」を図っていきます。

「トップライン拡大」への取り組みは、産業機器事業の幅広い顧客向けの戦略的販売やアクティブかつ効率的営業活動を行っています。グローバル展示会で新たな集客方法により、顧客との接点を増やしTHK製品への理解を深めていただいています。2017年にシンガポール、マレーシア、タイ、インドネシア、ベトナムで開設したECサイト「OmniTHK」は2017年末までに約7,700名のお客様にご登録いただきました。お客様が当社製品を認知してから注文に至るプロセスのどの場面にあっても、自由にシステムを使うことができるため、当社の営業拠点が無い地域のお客様も含めていつでも簡単に当社製品を購入することができます。2018年には中国、ブラジルへ展開予定です。

輸送機器事業では、引き続きTHK・THKリズム・TRAの相互の販売・生産拠点を活用する等のシナジーを発揮することにより、L&S(リンケー ジアンド サスペンション)事業のさらなる拡大に加え、直動製品のコア技術を活かした新製品の開発と拡販に取り組んでいます。

一方、生産面では中長期的な当社製品への需要の拡大が見込まれる中、THK常州精工(中国)で約7,000m²(2018年1月稼働)、創業10年を迎えたTMV(ベトナム)で約16,000m²(同10月)、山形工場で約32,000m²(同11月)の増産投資を行います。さらに2018年8月にはインドの新工場を着工し、2020年1月に稼働予定です。

「ボトムライン強化」については、収益性向上に向けた取り組みとして昨年のレポートでご報告した日本、米州、欧州、中国における各工場の加工機の稼働状況が一目でわかるイーグルシステムを派生させ、加工完了や非常停止等の状況を作業員や管理者の携帯端末に伝達し次の判断を即座に促すことで全体の稼働率向上を目指したシステムを導入しました。このような取り組みにより飛躍的な生産性向上を図っていきます。

真摯にチャレンジする

この度、日本工作機器工業会が窓口となり、平成29年秋の褒章において藍綬褒章を受章することができました。この度の受章は一つには同工業会での貢献がありますが、世界で初めてリニアモーションの「ころがり化」を実用化したパイオニアとして、業界ならびにTHKグループを発展させたことが最大のポイントになっていると考えています。これもひとえにお客様をはじめ、お取引先の皆様のご支援と社員の努力の賜物と、心より感謝申し上げます。

今後もTHKは本業を通じてステークホルダーの皆様方へ発信する企業価値を高めつつ、“豊かな社会作り”の実現に向け初心を忘れることなく業務に邁進してまいります。現在、産業用分野に加えて輸送用分野にも業容が拡大する中、その重責を感じ、さらに製造業の発展に向けて貢献すべく引き続き真摯に取り組んでまいります所存です。



THK株式会社 代表取締役社長 CEO

吉村彰博